

平成 30 年度 第 3 回 かわち野高等学校 学校運営協議会 議事録

日時：平成 31 年 2 月 19 日（火） 15 時 30 分～ 16 時 50 分

場所：本校アクティブラーニングルーム

1. 参加者

委員 5 名 事務局 本校職員 11 名

2. 報告

- ・平成 30 年度学校説明会実施状況
- ・学校教育自己診断

3. 協議

＜平成 30 年度学校経営計画、平成 31 年度学校経営計画策定に対する意見＞

- ・学校教育自己診断は厳しい結果ではあるが、分析結果を次の改善につなげていくことが、かわち野高校の活性化につながる。
- ・3 年生の進路結果はここ数年と比較してどうか。

→過去、大学・短大 3 割、専門学校 3.5 割、就職 3 割、未定 0.5 割というくらいの比率。今年度においては大学、短大の割合が若干低下し、就職の割合が上昇したが、大きな変化ではないので、例年通りという見方である。

- ・学校教育自己診断の「先生は努力を認めてくれる」「先生は話を良く聞いてくれる」「先生は悩みや相談に親身になって応じてくれる」のデータで、学年があがるほど肯定感が増しているという分析であったが、それは、3 年間で上昇してきたのではなく、その学年の持つ特長ではないのか。普通科総合選択制から普通科専門コース設置校になったことや教員数減、部活活性化のジレンマなど抱えている諸問題との相関性など、なぜ下がったかの分析はできているのか。

→1 年は 2 名の不合格者のみなので、厳しい学年であることは確かである。

- ・遅刻の理由にもいろいろあると思うが、学校が楽しいと思えていないことも大きな要因である。楽しいと回答した生徒たちは、学校の何が楽しいと感じているのかということにも目を向けてみてはどうか。楽しいと楽の違いをきちんと理解させ、達成できる仕組みづくりをお願いしたい。達成感が得られれば、楽しいと感じる生徒も増えるし、そうすれば、遅刻が減ることは間違いない。
- ・いじめ対策委員会について、持ち回りで担当されるのはどうか。委員を指名してしまうとどうしてもその人に頼ってしまうし、周りには関係がないという姿勢になってしまいがち。
- ・自転車マナーについて、特に報道でもあったように難聴のリスクを含んでいるイヤホンの扱いについては、きちんと指導していただきたい。
- ・1 年生の 1 分間スピーチやコグトレは社会に出て必ず必要になってくる。ぜひ継続していただきたい。

- ・生徒が愚痴をこぼす場所は親。生徒が先生に相談できるようにしてほしい。そうすることで親のストレスも軽減される。
- ・いじめについては保護者、教員、生徒すべての目を光らせて、絶対に未然に防ぐ努力をするべきである。
- ・挨拶をきちんとできるよう指導してほしい。
- ・遅刻でぎりぎりアウトの生徒については、あわてて事故を起こす危険もあるので、もっと余裕を持って登校するよう、保護者、教員から指導していく必要がある。
- ・いじめ対策委員会を立ち上げたのに、なぜ「いじめに関して体制が整っており、迅速に対応している」の肯定感が昨年度と比べ29%減となるのか。教員全体で話し合い、学校全体の問題として共有できているのか。『協働』をキーワードにして取り組んでほしい。